

参加報告/2017年度 信州大学 実験・実習技術研究会

濱崎, 真洋
九州大学応用力学研究所

<http://hdl.handle.net/2324/1956641>

出版情報：九州大学応用力学研究所技術職員技術レポート．19, pp.63-63, 2018-10．九州大学応用力学
研究所
バージョン：
権利関係：



参加報告／2017年度 信州大学 実験・実習技術研究会

濱崎 真洋

1. 出張・研修等の名称

2017年度 信州大学 実験・実習技術研究会

2. 開催場所・開催期間

開催場所：信州大学 長野（工学）キャンパス

開催期間：2018年3月1日（木）～ 2018年3月2日（金）

3. 出張・研修等への参加目的

国立大学法人等に所属する技術職員が、発表・討議を通じて技術の研鑽・伝承を図ることを目的に、お互いに人的・技術的交流を深めること。

4. 出張・研修等の概要

本研究会は、信州大学 長野（工学）キャンパスにおいて、2018年3月1日から3日の3日間開催された。1日目の午前中は専門技術職制度20周年記念シンポジウム、および、天野良彦教授による「地域資源を活かして地方を元気にする取り組みーソルガムプロジェクトと人材ー」と題した特別講演、次期開催校案内が執り行われ、午後からはポスターセッションおよび情報交換会が執り行われた。2日目は口頭発表が執り行われ、3日目は施設見学と実習が執り行われた。また、1日目、2日目を通して、展示ブースにて「食と環境科学技術」についての自由閲覧や口頭説明、および物品の販売が行われた。

自身は1日目と2日目のプログラムに参加し、シンポジウムと特別講演を聴講し、ポスターセッションでは、「カイト発電実験における地上装置の設計、製作」と題した発表を行った。口頭発表では、機械系や電気系の発表を中心に聴講した。

5. 所感

ポスターセッションでは、発表者が非常に多く、興味のある発表は多くあったが、それら全ての説明を発表時間内に聴くことができなかった。さらに、発表後すぐにポスターが撤去されたため、ゆっくりと見学することも叶わず残念であった。一方、自身の発表では、大勢の参加者と意見交換を行うことができ、有意義な発表になった。また、教員や技術職員が説明を行う展示ブースがあり、研究内容やその成果を見学することができた。この取り組みは斬新で内容も非常に興味深いものであった。

6. 特記事項

ポスター発表：カイト発電実験における地上装置の設計、製作